

目次

ツール バーの使用.....	1
ツール バーの使用: イントロダクション.....	1
ファイル オペレーション ツール バー	2
グラフィックスモードツールバー	6
グラフィックヒューズツールバー	9
グラフィック項目ツールバー	11
編集ウィンドウ ツール バー	14
ウィンドウ レイアウト ツール バー	17
保存されたユーザー レイアウトの削除	19
CAD セットアップツールバー	19
測定方法ツールバー	21
自動フィーチャー ツール バー	22
測定フィーチャー ツール バー	24
組み立てられたフィーチャー ツール バー	26
[ポイントクラウド]ツールバー	28
メッシュツールバー	28
ディメンション ツール バー	29
配置ツールバー.....	31
設定ツール バー.....	33
プローブ モード ツール バー.....	36

[チップの選択]ツールバー	38
アクティブ アーム ツール バー	39
アクティブ回転テーブル ツール バー	40
ClearanceCube ツールバー	41
ウィザード ツール バー	42
Excel オプションの設定	44
ツールバーの構築および検査	49
QuickMeasure ツールバー	49
QuickCloudツールバー	50
クイック治具ツールバー	51

ツールバーの使用

ツールバーの使用: イントロダクション

お客様の測定ルーチンのプログラム作成にかかる時間を短縮するため、PC-DMISでは、頻繁に使用されるコマンドからなる、様々なツールバーを用意しています。次の2つの方法でほとんどのツールバーにアクセスすることができます。

- **表示 | ツールバー**を選び、メニューからツールバーを選択して下さい。
- PC-DMISのツールバーエリアを右クリックし、現れたショートカットメニューからツールバーを選択して下さい。

提供されている各ツールバーについては以下のトピックに記載されています

- ファイル オペレーション ツールバー
- グラフィックスモードツールバー
- グラフィックビューツールバー
- グラフィックス項目ツールバー
- 編集ウィンドウ ツールバー
- ウィンドウ レイアウト ツールバー
- CADセットアップツールバー
- 測定方法ツールバー
- 自動フィーチャー ツールバー
- 測定フィーチャー ツールバー
- 組み立てられたフィーチャー ツールバー
- [ポイントクラウド]ツールバー
- メッシュツールバー
- ディメンション ツールバー
- 配置ツールバー
- 設定ツールバー
- プローブ モード ツールバー
- [チップの選択]ツールバー
- アクティブアーム ツールバー

- アクティブ回転テーブル ツール バー
- ClearanceCube ツールバー
- ウィザード ツール バー
- ツールバーの構築および検査
- QuickMeasure ツールバー
- QuickCloudツールバー
- クイック治具ツールバー

また、ユーザー独自のツールバーをカスタマイズして作成することもできます。詳細については、「ユーザーインターフェイスの操作」の章の「ユーザー・インターフェイスのカスタマイズ」を参照してください。

ファイル オペレーション ツール バー



ファイル オペレーション ツール バー

認定前



PC-DMIS ユーザー用のファイル操作ツールバー



PC-DMIS プログラマー用のファイル操作ツールバー

ファイル オペレーション ツール バー

認定後



PC-DMIS ユーザー用のファイル操作ツールバー



PC-DMIS プログラマー用のファイル操作ツールバー

ファイル操作ツールバー（表示|ツールバー|ファイル操作）を使用して、次の操作を実行できます：



新規ファイル - このオプションをクリックして新しい測定ルーチンを作成します。



ファイルを開く - このオプションをクリックして既存の測定ルーチンを開きます



ファイルを閉じる - このオプションをクリックしてアクティブな測定ルーチンを閉じます。



終了 - このオプションをクリックして PC-DMIS を終了します。



ファイルを保存 - このオプションをクリックして現在の測定ルーチンを保存します。



名前を付けて保存 - このオプションをクリックして、現在の測定ルーチンを異なる名前で保存します。



認定済みを表示する - このオプションをクリックして、保護モードで測定ルーチンの認定済みバージョンを開きます



このボタンは認定済み測定ルーチンでのみ使用することができます。



送信する - このオプションをクリックして、認証のために現在の測定ルーチンを送信して、.protect ファイルを生成します。



送信の取り消し - このオプションをクリックして、現在の測定ルーチンの認証のための送信を取り消します。



[送信] および [送信の取り消し] ボタンは、ユーザーが **PC-DMIS ユーザー** グループに属しており、Protect Viewer オプションを自分のライセンスに追加している場合にのみ利用できます。



認証 - このオプションをクリックして現在の測定ルーチンを認証します。



拒否 - このオプションをクリックして現在の測定ルーチンの認証を拒否します。



削除 - このオプションをクリックして、現在の測定ルーチンの最後の認証後に行ったすべての変更を削除します。これで測定ルーチンを最初から編集することができます。



[認証]、[拒否] および [削除] ボタンは、ユーザーが **PC-DMIS プログラマー** グループに属しており、Protect Viewer ライセンスを有効にしている場合にのみ利用できます。

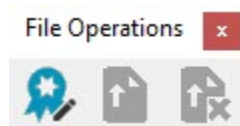


再認証 - このオプションをクリックして現在の測定ルーチンを再認証します。

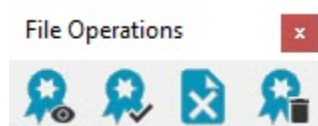
これらのファイル操作に関する完全な情報については、PC-DMIS Core ドキュメントの「基本的なファイルオプションの使用」および「高度なファイルオプションの使用」章を参照して下さい。

ファイル オペレーション ツール バー

保護モードファイル操作ツールバー



PC-DMIS ユーザー用のファイル操作ツールバー



PC-DMIS プログラマー用のファイル操作ツールバー



認定ルーチンの編集 - このボタンは、認定された測定ルーチンを開きます：

- ・ ユーザーが測定ルーチンの作成者である場合、このボタンで認証された測定ルーチンが編集モードで開きます。
- ・ ユーザーが **PC-DMIS プログラマー** グループのメンバーであり、測定ルーチンが再認証のために送信されたものである場合、このボタンは保護モードで認証済み測定ルーチンを開きます。
- ・ 再認証用の測定ルーチンが利用できない場合、PC-DMIS はユーザーが測定ルーチンの作成者ではなく、認証のためにユーザーに送信されていないというメッセージを表示します。

関連トピック

査証

PC-DMIS プログラマーグループへのユーザーまたはグループの追加

1レベル認証

2レベル認証

認定済み測定ルーチンを編集する

.protect ファイルを認証および表示する手順

グラフィックスモードツールバー



グラフィックスモードツールバー

グラフィックス モードツールバー(ビュー | ツールバー | グラフィックス モード)を用いると、画面上のパーツの表示を変更することができます。また、利用可能なモードに簡単にアクセスすることもできます。このツール バーには、以下のアイコンがあります:



ビューのセットアップ - グラフィック表示ウィンドウでパーツの表示を変更します。「CAD表示の編集」章の「画面ビューの設定」を参照してください。



ビューの保存 - その時点でのビューセットを後に呼び出しできるように、パーツの画像を保存します。「レポートコマンドの挿入」の章の「ビューセットの利用」を参照して下さい。



ビューの作成 - 後に呼び出しできる、分離されたビューセットコマンドとして、パーツの画像を保存します。「レポートコマンドの挿入」の章の「ビューセットの利用」を参照して下さい。



スナップショット - 現在のグラフィック表示ウィンドウの状態の **SNAPSHOT** コマンドを編集ウィンドウに挿入します。このコマンドを実行すると、その状態での画像キャプチャがレポートに挿入されます。「レポートコマンドの挿入」章の「スナップショットの挿入」を参照してください。

グラフィックスモードツールバー



画面に合わせて表示 - グラフィック表示ウィンドウで、画面に合わせてグラフィックのビューを拡大または縮小します。「CAD表示の編集」章の「図面のサイズを変更」を参照して下さい。



面の描画 - 立体CAD曲面の表示のオン、またはオフを操作します。「CAD表示の編集」の章にある「曲面を描く」を参照して下さい。



画面を再描画 - パーツのすべてのビューを更新して再描画します。「CAD表示の編集」章の「画面を描き直す」を参照して下さい。



プローブをセンターに配置 - プローブをグラフィックの表示ウィンドウ画面の中心に配置し、パーツがアニメーション表示されプローブが常に中心にくるようにします。「CAD表示の編集」の章にある「プローブを中心に配置」を参照して下さい。



曲線モード - PC-DMISを曲線モードにします（ワイヤーフレーム用）。「CAD 表示の編集」章の「曲線モードと表面モード間の切り換え」を参照して下さい。



表面モード - PC-DMISを表面モードにします（表面データと併用するため）。「CAD 表示の編集」章の「曲線モードと表面モード間の切り換え」を参照して下さい。



変換モード - PC-DMIS を変換モードにします。「CAD表示の編集」章の「変換モード」を参照して下さい。



2D 回転モード - 選択された画像においてパートを2次的に回転します。「CAD表示の編集」章の「2D回転モード」を参照して下さい。



3D 回転モード - 選択された画像においてパートを3次的に回転します。「CAD表示の編集」の項にある「3D回転モード」を参照して下さい。



2D断面スライドショー - 測定ルーチンにポイントクラウドまたはメッシュ断面がある場合、このボタンは2D断面スライドショーのオン/オフを切り換えます。PC-DMISレーザードキュメントの「断面の2D表示」を参照してください。



プログラムモード - オフラインまたはオンラインモードのいずれかでプローブを使用して、測定ルーチンをティーティングおよび編集します。「CAD表示の編集」章の「プログラムモード」を参照してください。



テキストボックスモード - PC-DMISを、要素ID、要素制御フレーム、点走査およびCAD GD&T吹き出しを操作することができるモードにします。さらに、このモードを使用して、寸法情報とポイント情報テキストボックスを迅速に作成し、変更することができます。「CAD表示の編集」章の「テキストボックス モード」を参照して下さい。



クイック治具モード - マウスでドラッグしてクイック治具およびパートを移動できるようにクイック治具モードに入ります。「ハードウェアの定義」章にある「クイック取付具の挿入」を参照して下さい。



GD&T選択モード (CADからの) - パートモデル内に埋め込まれた特定のGD&Tコールアウトをボックス選択し、測定ルーチンにインポートする機能を提供します。「CAD表示の編集」章の「CAD GD&Tコールアウトを使用した操作」を参照して下さい。

また、コールアウトの他の操作を実行するための右クリックのショートカットメニューも用意されています。「ショートカットキーとショートカットメニューの使用」章の「CAD GD&Tコールアウトのショートカットメニュー」を参照してください。



GD&T選択モード (ファイルから) - 開くダイアログボックスを表示して、インポートする図面(図形)を選択できるようにします。次に、OCRを使用してインポートするGD&T公差を決定することができます。ソフトウェアは図面 (図形) 上での各GD&T公差をサイクル表示します。「幾何公差の使用」章の「GD&T選択モードを使用したFCFの作成」を参照してください。



CAD 照明 - CADモデルに照明、外観質感、及び透明性を適用します。「CAD表示の編集」章の「CADとグラフィックスの設定」を参照してください。



回転オプション - PC-DMISがパーツ回転中にグラフィック表示ウィンドウに項目を表示する方法を変更します。「CAD表示の編集」章の「回転およびその他の移動オプションの変更」を参照して下さい。



符号の表示 - グラフィック表示ウィンドウでCADのポイント、スキャン点、および要素点の表示に使用する記号のスタイルおよびサイズを定義します。これにより、[CADおよび図形の設定]ダイアログボックスの[シンボル]タブが開きます。「CAD表示の編集」章の「表示記号の変更」を参照して下さい。



クリッピング平面 - グラフィック表示ウィンドウでパーツモデルの断面を表示します。これは**CAD及び図形の設定** ダイアログボックスの切り取りの平面タブを開きます。「CAD表示の編集」章の「クリップ平面タブ」を参照してください。

グラフィックビューツールバー



グラフィックビューツールバー

[グラフィック表示] ツールバー(表示 | ツールバー | グラフィック表示)を使用して、パーツをグラフィックの表示ウィンドウに表示する方法を変更できます。

たくさんのこれらのアイコンは[表示の設定]ダイアログボックスを使用して表示に影響を与えた場合と同じように機能します。表示の設定については、「CAD表示の編集」章の「画面ビューの設定」を参照してください。

グラフィックの表示ウィンドウを設定して複数のビューを表示したい場合、一部のアイコンは[ビューの設定]ダイアログボックスの[ビュー]エリアにある青色ペインのみに影響します。

例えば、[ビューの設定]ダイアログボックスからこのアイコンを使用して画面を3つのビューに分割したい場合、



このツールバーには、以下のアイコンがあります:



画像ウィンドウのX+

パーツのX+ 画像を表示します。



画像ウィンドウのX-

パーツのX- 画像を表示します。



画像ウィンドウのY+

パーツのY+ 画像を表示します。



画像ウィンドウのY-

パーツのY- 画像を表示します。



画像ウィンドウのZ+

パーツのZ+ 画像を表示します。



画像ウィンドウのZ-

パーツのZ- 画像を表示します。



グラフィック表示ウィンドウの左下にある三面体回転インターフェースの面をクリックして、モデルを回転させ、その面にビューを「四角形」にすることもできます。詳細は、「三面体回転インターフェースの使用」を参照してください。



等軸測視図のグラフィックウィンドウ

パーツの等大画像を表示します。



プローブ方向に基づくグラフィック・ウィンドウ

電流プローブの先端の角度のプローブの軸に沿っての部分を見るために視点をパンして、ズームして、回転させます。



グラフィックウィンドウを立体として表示

グラフィック表示ウィンドウはパートのワイヤーフレームまたはソリッドビューモード間で切り換わります。



表面エッジ

サーフェスのエッジに太い線を描画します。は「表面エッジ」と呼ばれます。このアイコンは[ソリッド]アイコンが選択された場合に利用可能になります。サーフェスエッジの色とサイズは、**CADおよび図形設定**ダイアログボックスの**ワイヤフレーム**タブでカスタマイズできます。詳細については、「CAD表示の編集：はじめに」章の「ワイヤフレームタブ」を参照してください。



パーツモデルの透明性

パーツモデルの透明度をオンまたはオフにします。これにより、パーツモデルの[CADおよび図形の設定]ダイアログボックスの[照明]タブの[透明化を有効にする]チェックボックスがオンまたはオフになります。

このタブの透明度の設定については、「CAD表示の編集」章の「照明タブ」を参照してください。



グラフィック表示ウィンドウ3Dを切り替え

グラフィックス表示ウィンドウに3Dグリッドを表示または非表示にします。

グラフィック項目ツールバー

グラフィック項目ツールバー（表示|ツールバー|グラフィック項目）を使用して、グラフィック表示ウィンドウでグラフィック項目を表示または非表示にすることができます。これらのツールバーアイコンを使用できます：



CADの表示 - CADモデルを表示します。



GD&Tの表示 - CADモデルに埋め込まれたCAD GD&Tの表示コールアウトまたはPMI（製品製造情報）を表示します。



GD&T ノートの表示 - CADモデルに埋め込まれたGD&Tのノートを表示します。これらの埋め込まれたCAD要素のみを表示できます。これらをコマンドとして編集ウィンドウにインポートすることはできません。



特性ID - CAD GD&Tコールアウトの特性IDを表示します。特性IDは、対応するCAD GD&Tも表示されている場合のみに表示されます(上記の**GD&Tを表示**を参照してください)。特性IDについては、「CADディスプレイの編集」章の「CAD GD&Tコールアウトの使用」トピックの「CAD GD&T特性IDの表示または非表示」のサブトピックを参照してください。



- 回転ウィジェットの表示 - グラフィック表示ウィンドウの各ビューの左下隅に小さな3面体と立方体を表示します。キューブをクリックすると、CADモデルを面に回転させることができます。キューブをダブルクリックすると、CADモデルに合わせて回転と拡大の両方を行うことができます。詳細は、「CAD表示の編集」章の「回転ウィジェットの使用」を参照してください。



要素ラベルIDの表示 - 測定ルーチンに追加した要素コマンドのIDを表示します。



点情報ラベルIDの表示 - 点情報ボックスのラベルIDを表示します。



DimInfoラベルIDの表示 - 寸法情報（DimInfo）ボックスのラベルID。



すべてのラベルIDの表示 - 上記のすべてのラベルIDを表示します。



すべての点群を表示 - すべての点群と関連する注釈を表示します。



すべてのメッシュを表示 - メッシュのすべての要素と関連付けられた注釈を表示します。



カラーマップのアクティブ化 - グラフィック表示ウィンドウでアクティブなカラーマップを表示または非表示にします。

- ポイントクラウドカラーマップの演算子の詳細については、「ポイントクラウド演算子」セクションを参照してください。
- メッシュカラーマップの演算子の詳細については、「メッシュ演算子の作成」セクションを参照してください。



すべての断面の表示 - 実測及び公称の断面および関連する注釈をすべて表示します。



プローブの表示 - プローブのモデルの動画を表示します。



測定機を表示する - 測定機のモデルの動画を表示します。このオプションはユーザーがオフラインモードでPC-DMISを使用する場合に利用できます。



プローブチェンジャーの表示 - プローブチェンジャーのモデルの動画を表示します。



治具の表示 - インポートした任意の治具を表示します。



クリアランス平面の表示 - 定義したクリアランス面を表示します。



ClearanceCubeの表示 - ClearanceCubeを表示します。

編集ウィンドウ ツール バー



編集ウィンドウ ツール バー

編集ウィンドウツールバー（[表示|ツールバー|編集ウィンドウ]）を使用して、素早く多くの画面編集機能にアクセスします。

ツールバーを使用して、簡単にしかも直感的に使用できる方法で編集ウィンドウの内容を操作します。ツールバーでは、これらの重要な編集ウィンドウのコマンドに素早くアクセスできます。一部のアイコンは適切な設定がある場合にのみ表示されます。



実行 - このアイコンはその時点で選択されたすべての要素の測定プロセスを実行します。詳細については、「詳細ファイルオプションの使用」章の「測定ルーチンの実行」を参照して下さい。



自動調整の実行 - このアイコンを使ってターゲットとなる光学測定機に対する測定ルーチンコマンドの照明、倍率および画像処理パラメータについて習得できます。このアイコンはビジョン設定がある場合にのみ表示されます。詳細については、PC-DMIS Vision ドキュメントの「AutoTune (自動調整) 実行の使用」を参照してください。



シーケンシャル実行 - このアイコンは、シーケンシャル実行モードをオンにします。このモードでは現時点の要素の計算が終了するまで実行が継続されません。詳細については、PC-DMIS Laser ドキュメントの「シーケンシャル実行モードの使用」を参照してください。このアイコンはレーザー設定がある場合にのみ表示されます。



現時点要素をマーク - このアイコンはお手持ちのカーソル下にある要素を強調表示し、その要素の実行に備えます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「マーク」を参照して下さい。



すべて選択 - このアイコンは編集ウィンドウにあるすべての要素を強調表示します。PC-DMISは、整列に用いる幾何要素もハイライト表示したいかを尋ねます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「すべて選択」を参照して下さい。



選択を解除 - このアイコンは編集ウィンドウ内の、その時点でマークされている要素全体の強調表示を解除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「すべて選択」を参照して下さい。



ブレークポイントの挿入 - このアイコンは、測定ルーチン内のその時点でのカーソル位置にブレークポイントを挿入します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「ブレークポイントの使用」を参照して下さい。



ブレークポイントをすべて削除 - このアイコンは測定ルーチンからブレークポイントを削除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「すべて削除」を参照して下さい。



始点を設定 - このアイコンはアクティブな学習アーム用の始点を設定することができます。編集ウィンドウより、開始点に使用したいコマンドをクリックしてから[開始点]ツールバー アイコンをクリックします。現在のアームの開始点が、挿入地点にあるコマンドに設定されます。また、コマンドを右クリックして、**開始点の設定**を選択することにより、開始点を設定することも可能です。マルチアームモードの詳細については、「マルチアームモードの使用」の章を参照してください。「測定ルーチンの編集」章の「開始点の設定」を参照して下さい。



ブックマークの挿入 - このアイコンは測定ルーチンにその時点のカーソル位置にブックマークを配置します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「ブックマーク」を参照して下さい。



次のブックマーク - このアイコンは、測定ルーチン内にブックマークが含まれる次の編集ウィンドウの場所にカーソルを移動します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「次のブックマーク」を参照して下さい。



すべてのブックマークをクリア - このアイコンは測定ルーチンからすべてのブックマークを削除します。詳細については、「測定ルーチンの編集」章の「すべてのブックマークのクリア」を参照してください。



要約モード - このアイコンは編集ウィンドウを要約モードにします。このモードでは、ユーザーは測定ルーチン内のグループおよびゲージコマンドのグラフィカルな要

約を展開および折りたむことができます。詳しくは、「編集ウィンドウの使用」章の「要約モードでの作業」を参照して下さい。



[コマンド モード] - このアイコンは編集ウィンドウをコマンドモードにします。このモードを用いると、様々なコマンドにアクセスでき、これらのコマンドで測定ルーチンの各種状況を編集することができます。「編集ウィンドウの使用」章の「コマンドモードの使用」を参照して下さい。



DMISモード - このアイコンはDMIS形式で編集ウィンドウのコマンドを表示するため、DMIS構文で作業することができます。ツールバー上にこのアイコンが表示されない場合、[設定オプション] ダイアログボックスの [全般] タブにある [編集ウィンドウでのDMISボタンの使用] チェックボックスを選択して下さい。[全般] タブの詳細については、「カスタマイズ設定」章の「設定オプション：全般タブ」を参照してください。DMIS については、<http://www.dmis.com> および「編集ウィンドウの使用」章の「DMISモードでの操作」を参照してください。①



切り取り - このアイコンは選択されたテキストとコマンドを編集ウィンドウから削除し、その情報を一時的にクリップボードに保存して後で貼り付けます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「切り取り」を参照して下さい。



コピー - このアイコンは選択されたテキストとコマンドを編集ウィンドウからコピーし、その情報を一時的にクリップボードに保存して後で貼り付けます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「コピー」を参照して下さい。



ペースト - このアイコンは、クリップボードに保存された情報を編集ウィンドウのカーソルの現在の位置に挿入します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「貼り付け」を参照して下さい。



パターンの定義 - このアイコンは [パターンの貼り付け] で使用するパターンを定義するための [パターン設定] ダイアログボックスを開きます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「要素パターンの編集」を参照して下さい。



[パターンの貼り付け] - このアイコンはオフセットの付いたパターン化した要素を、その時点でのカーソル所在位置にある測定ルーチン内に貼り付けます。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「要素パターンの編集」を参照して下さい。

ウィンドウ レイアウト ツール バー



[元に戻す] - このアイコンは編集ウィンドウ内で行われた最後の操作を削除します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「元に戻す」を参照して下さい。

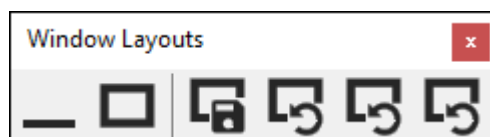


やり直し - このアイコンは**元に戻す**で削除されたアクションをやり直します。詳しくは、「測定ルーチンの編集」章の「やり直し」を参照して下さい。



印刷 - このアイコンはダイアログボックスを表示せずに、編集ウィンドウの現在の内容のレポートをデフォルトプリンターに直ちに送信します。このオプションは要約モードでは利用できません。

ウィンドウ レイアウト ツール バー



ウィンドウ レイアウト ツール バー

ウィンドウレイアウトツールバー（表示|ツールバー|ウィンドウレイアウト）を使用して、開かれているウィンドウ、エディタ、およびツールバーのレイアウトを保存できます。格納されたレイアウトをクリックすると、現在の測定ルーチンで復元することができます。



レイアウトは、ツールバーやウィンドウの位置だけでなく、ウィンドウやツールバーに関連する設定やオプションも保存されます。レイアウト用に選択された設定があり、そのレイアウトが保存された場合、その設定もレイアウトと共に保存されます。保存されたレイアウトを上書きすることなく、このウィンドウ設定が後に選択解除された場合で、次回このレイアウトが選択されると、PC-DMISはその保存された設定を復元します。

このツールバーには、以下のアイコンがあります：



最小化 - このアイコンは編集ウィンドウのサイズを最小化します。




最大化 - このアイコンは編集ウィンドウのサイズを最大化します。



保存 - このアイコンは[ウィンドウのレイアウト名を入力] ダイアログボックスを開き、開いているウィンドウ、エディタ、またはツールバーの現在の位置とサイズをお好きなレイアウト名で保存できるようにします。

ウィンドウ レイアウト名ボックスでは、レイアウト用の名称を指定することができます。PC-DMISはまた、この名称を、そのレイアウトと結びついたアイコン用のツールヒントとして表示します。レイアウト名を含まない場合、PC-DMISは「ウィンドウ レイアウト呼び出し」というデフォルト設定の名称を使用します。

OKがクリックされると、そのレイアウトが保存され、そのレイアウトを示すアイ

コン () がレイアウト設定と共に、ツールバー上に現れます。

新規のレイアウトに、既存のレイアウトと同一の名称を付けることによって、既存のレイアウトを新規のレイアウトで上書きすることはできません。既存のレイアウトを上書きしたい場合には、まず既存のレイアウトを削除し、それから、新規のレイアウトに同一の名称を付けてください。



保存されたレイアウトの復元 - このアイコンは保存されたレイアウトを復元します。ウィンドウ、エディタ、およびツールバーは保存されていた位置に復元されます。アイコンの上にマウスポインタを置くと、保存されているレイアウトの名前が表示されます。



複数の測定ルーチンが開いた状態で、そのうちの一つを用いてレイアウトを作成、保存した場合、レイアウト作成に用いられた測定ルーチンが優位になります。保存されたレイアウトを作成するのに使用される測定ルーチンはアクティブな測定ルーチンになり、保存されたウィンドウ レイアウトを表示します。

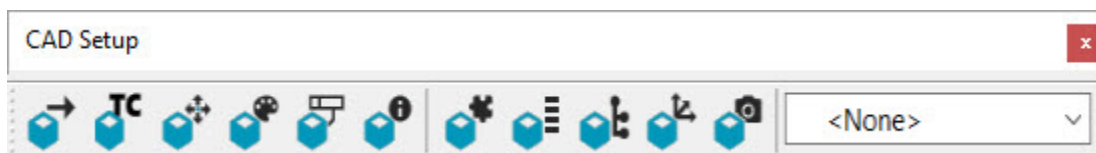
保存されたユーザー レイアウトの削除

保存されたユーザー レイアウトを削除するには、以下の手順に従ってください

1. ツール バー エリアを右クリックし、**カスタマイズ**を選択して下さい。**カスタマイズ**ダイアログ ボックスが表示されます。
2. キーボードのシフトキーを押し続けます。
3. **ウィンドウ レイアウト**ツール バーのアイコン上で、マウスをクリックし、そのまま押さえ続けて下さい。アイコンが移動可能になります。
4. 当アイコンをツール バーの境界線外へドラッグして下さい。
5. マウスボタンを離します。

当アイコンと、それに連結したレイアウトが削除されます。

CADセットアップツールバー



CADセットアップツールバー

[CAD 設定] ツールバーには下記オプションがあり、グラフィック表示ウィンドウで CAD モデルを設定して作業するのに役立ちます。



CADファイルからインポート - これを使うと、[インポート] ダイアログボックスを表示して、ライブラリからのサポートされるパートモデルに移動して、それをインポートすることができます。[ファイルの種類] 一覧を選択して、ファイルの種類を表示します。PC-DMISはこのボタンを最後に使用したときに選択したファイルの種類を記憶し、そのファイルの種類をデフォルトにします。ファイルのインポートについては、「詳細ファイルオプションの使用」章の「CADデータまたは要素データのインポート」を参照してください。



Teamcenter から CAD をインポート - [Teamcenter オープン] ダイアログボックスを表示し、ユーザーが Teamcenter データベースに移動して CAD モデルをインポートできるようにします。CAD モデルをインポートする方法については、PC-DMIS DCI

ドキュメントの「Teamcenterの使用」章にある「ステップ3 - サポートされるモデルを読み込む」を参照してください。



CAD 変換 - [CAD 変換] ダイアログボックスを表示して、CAD モデルを変換 (平行移動、サイズ調整および回転) できるようにします。CAD モデルの変換方法については、「CAD 表示の編集」章の「CAD モデルの変換」を参照してください。



CADの色 - CAD要素の編集ダイアログボックスを表示して、ユーザーが選択した要素の色を変更できるようにします。CADの色について詳しくは、「CAD表示の編集」章の「CAD要素の編集」を参照してください。



CAD GD&Tオプション - CADおよびグラフィック設定ダイアログボックスの**CAD GD&T**タブを表示して、ユーザーがグラフィック表示ウィンドウでのCAD GD&Tコールアウトの表示の仕方を設定できるようにします。このタブの使用について詳しくは、「CAD表示の編集」章の「CAD GD&Tタブ」を参照してください。



CAD情報 - CAD情報ダイアログボックスを表示して、ユーザーがCADモデルについての追加情報を表示できるようにします。CAD情報について詳しくは、「CAD表示の編集」章の「CAD情報の表示」を参照してください。



アセンブリ - CADアセンブリダイアログボックスを表示して、ユーザーがCADアセンブリ (パートモデル集) を作成するか、パートをアセンブリ内部で表示または非表示にすることができるようにします。CADアセンブリについて詳しくは、「CAD表示の編集」章の「パートのアセンブリでの作業」を参照してください。



CADレベル - CADレベルダイアログボックスを表示して、ユーザーがCADエレメントを現在表示されているCADモデルのCADレベルとしてグループ分けできるようにします。CADレベルについて詳しくは、「CAD表示の編集」章の「CADレベルでの作業」を参照してください。



CADグループ - CADグループダイアログボックスを表示して、CAD要素をCADグループとしてグループ分けできるようにします。また、ユーザーはこれを使用して、グラフィック表示ウィンドウでグ

測定方法ツールバー

ループの変更、削除および表示/非表示を実行できます。CADグループについて詳しくは、「CAD表示の編集」ドキュメントの「CADグループでの作業」を参照してください。




座標系 - CAD座標系ダイアログボックスを表示して、ユーザーがCADモデルの座標系を作成または選択できるようにします。CAD座標系について詳しくは、「CAD表示の編集」章の「CAD座標系での作業」を参照してください。



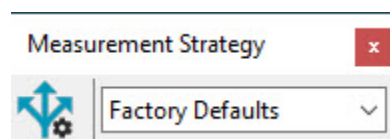
CADモデルビュー - CADモデルビューを定義して有効にするには、**CADモデルビュー**ダイアログボックスを表示します。これらのビューはCADグループに似たCAD要素を表示または非表示にするだけでなく、方向、陰付け、拡大縮小および切り抜き平面に関する情報も含みます。

アイコンの右側のリストは使用可能なCADモデルビューを含んでいます。CADモデルビューがない場合、リストは空です。リストから<なし>を選択すると、CADモデルビューを非アクティブにすることができます。CADモデルビューに埋め込まれたCAD GD&Tコールアウトが含まれている場合、このアイコン

() がリストの内でその項目の横に表示されます。CAD GD&Tコールアウトの詳細については、「CAD表示の編集」ドキュメンテーションの「CAD GD&Tコールアウトの操作」トピックを参照してください。

CADモデルビューの詳細については、「CAD表示の編集」ドキュメンテーションの「CADモデルビューの使用」を参照してください。

測定方法ツールバー



測定方法エディター - このボタンは測定方法エディター (MSE) を開きます。詳細については、「カスタマイズ設定」章の「測定方法エディターの使用」を参照してください。このボタンが表示されるのは、**セットアップオプション**ダイアログボックスの一般タブにあるチェックボックスのリストにおける**測定方法エディターの使用**チェックボックスを有効 (オン) にした場合です(F5)。

測定方法グループ - ボタンの右にある一覧を使うと、デフォルトの測定方法グループを変更することができます。グループはすべての自動要素の変更された設定の保存済みセットです。この一覧にはユーザーがMSEで定義したすべての利用可能なグループが表示されます。この一覧からグループを選択すると、それはPC-DMISが次に使用するデフォルトのグループになります。PC-DMISはQuickFeaturesと測定方法ウィジェットでそのグループを使用します。詳しくは、「自動要素の作成」章の「クイック要素の作成

」および「測定方法ウィジェットの使用」を参照してください。一覧に工場出荷時デフォルトしかない場合、ユーザーはまだMSEでグループを作成していません。

自動フィーチャー ツール バー



自動フィーチャー ツール バー

自動要素ツール バー（表示 | ツールバー | 自動要素）を用いると、自動要素ダイアログ ボックスの各種タブで利用可能なものと同じ自動要素にアクセスすることができます。



PC-DMISは、PC-DMISの設定と現在のプローブタイプに基づいて、どの自動要素が有効になっているかを判断します。さまざまな設定がサポートする自動要素の詳細については、「自動要素の作成」章の「自動要素の挿入」を参照してください。

以下のオプションが利用可能です:



ベクトル点 - クリックされた位置のサーフェスベクトルから自動ベクトル点要素を作成します。



面上点 - クリックされた位置で自動面上点要素を作成します。



vエッジ点 - 2つの面間の線で自動エッジ点要素を作成します。



交点 - 3つの垂直面が交差する自動交点要素を作成します。



頂点 - 2つの線またはサーフェスが交差する自動頂点要素を作成します。



最上部点 - サーフェス上の最も高い位置に自動最上部点を作成します。



線 - 線の上に自動線要素を作成します。



平面 - 面の上に自動平面要素を作成します。



円 - 円の上に自動円要素を作成します。



楕円 - 楕円の上に自動楕円要素を作成します。



円形スロット - 円形スロットの上に自動円形スロット要素を作成します。



四角形スロット - 四角形スロットの上に自動四角形スロット要素を作成します。



切り欠き - 3 辺の四角スロットの上に自動切り欠き要素を作成します。



フラッシュとギャップ - 自動フラッシュおよびギャップ要素を作成して、2 つの接合板金パート間の高さの相違を測定します。これはレーザープローブで利用可能になります。



ポリゴン - 同じ長さの3つ以上の辺の要素から自動ポリゴン要素を作成します。



プロファイル2D - 自動プロファイル 2D 要素を作成します。これはビジョンプローブで利用できます。



blob - 自動blob要素を作成します。これはビジョンプローブで利用できません。



円筒 - 自動円筒要素を作成します。



円錐 - 自動円錐要素を作成します。



球 - 自動球要素を作成します。

自動要素アイコンをクリックすると、**自動要素**ダイアログボックスが開き、その要素タイプが選択されます。自動要素を作成するには、「自動要素の作成」の章に記載された指示に従ってください。準備ができたなら[END] キーを押すか、または**[要素の自動作成]**ダイアログボックスの**[作成]** ボタンをクリックして、要素を測定ルーチンに挿入します。要素を作成する前に、ALT + 「-」 キーを同時に押して、ヒット バッファからヒットを除去することができます。



[自動要素]ダイアログボックスの**[最小化]**ボタンをクリックすると、要素を**非表示**にして、選択した要素を作成することができます。

測定フィーチャー ツール バー



測定フィーチャー ツール バー

測定済要素ツールバー（**表示|ツールバー|測定済要素**）を使用すると、PC-DMISに特定の要素タイプを受け入れるか、またはヒットを取っている要素タイプを推測して表示させることができます。



点 - 点要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



線 - 直線要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



平面 - 平面要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



円 - 円要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



円形スロット - 円形スロット要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



四角形スロット - 四角形スロット要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



円筒 - 円筒要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



円錐 - 円錐要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



球 - 球要素タイプを受け入れるよう、PC-DMISに強制します。



円環 - 円環面要素タイプを受け入れるように、PC-DMISに強制します。



セット - 要素の測定済のセットを作成します。



推測 - ソフトウェアがヒット数に基づいて要素タイプを推測する推測モードを有効にします。PC-DMISは、ヒットを取った後、グラフィックス表示ウィンドウで推測された要素タイプを描画します。

推測モードのプレビュー

PC-DMISは、要素タイプを実際に受け入れる前に視覚的にプレビューします。例えば、円筒を測定する場合、ピンの高さに沿って2つの異なるレベルで、2セットの4つのヒットを取る必要があります。最初のレベルで4ヒットを取ると、PC-DMISはグラフィックス表示ウィンドウに円を描きます。第2レベルのヒットを取った後、PC-DMISは、各レベルに1つずつ、測定された円を表す2つの円を表示します。

この要素は、Endキーを押す場合に測定ルーチンに追加されます。ヒットを削除するには、「-」またはALT + 「-」キーを押してください。

推測要素を強制すること

PC-DMISが間違っ要素タイプを表示する場合は、特定の要素アイコンをクリックして、PC-DMISはその要素を受け入れるようにすることができます。例えば、円アイコンが選択された場合、最低数のヒットが行われているかぎりにおいて、PC-DMISは、強制的に円フィーチャー タイプを受け入れます。

組み立てられたフィーチャー ツール バー



組み立てられたフィーチャー ツール バー

構築要素ツールバー（ビュー|ツールバー|構築要素）から、アイコンを使用して、挿入|要素|構築サブメニューから利用可能な要素の構築オプションに素早くアクセスすることができます。



点 - 入力から点を作成します。詳細については、点を参照してください。



線 - 入力から線を作成します。詳細については、線を参照してください。



平面 - 入力から平面を作成します。詳細については「平面」を参照してください。



円 - 入力から円を作成します。詳細については「円」を参照してください。



楕円 - 入力から楕円を作成します。詳細については「楕円」を参照してください。



円形スロット - 入力から円形スロットを作成します。詳細については「円形スロット」を参照してください。

組み立てられたフィーチャー ツール バー



四角形スロット - 入力から四角形スロットを作成します。詳細については「四角形スロット」を参照してください。



幅 - 入力から幅を作成します。詳細については「幅」を参照してください。



カーブ - 入力からカーブを作成します。詳細については「カーブ」を参照してください。



円筒 - 入力から円筒を作成します。詳細については「円筒」を参照してください。



円錐 - 入力から円錐を作成します。詳細については「円錐」を参照してください。



球 - 入力から球を作成します。詳細については「球」を参照してください。



表面 - 入力から表面を作成します。詳細については「表面」を参照してください。



要素セット - 入力から要素セットを作成します。詳細については「要素セット」を参照してください。



フィルタ - スキャン、特定の構築済み要素、または別のフィルタセットからフィルタセットを作成します。詳細については「フィルタセット」を参照してください。



調整されたフィルタ - 球、円錐、または円柱の要素をスキャンする際に収集された、調整されたスキャンデータから調整されたフィルタを構築します。詳細については「調整されたフィルタ」を参照してください。

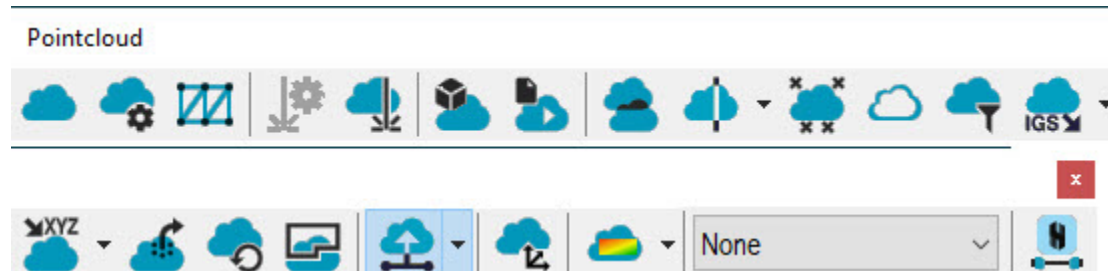


汎用 - 入力に基づいて式で修正された汎用要素を構築します。詳細については「汎用」を参照してください。

これらの項目に関する説明については、「既存フィーチャーからの新規フィーチャー組み立て」の章、及び「汎用フィーチャーの作成」の章を参照して下さい。

読み取りポイント挿入に関する説明については、「汎用フィーチャーの作成」の章で利用可能な文書を参照して下さい。

[ポイントクラウド]ツールバー

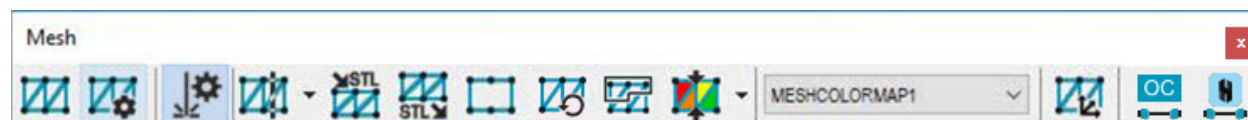


[ポイントクラウド]ツールバー

ポイントクラウドツールバーはすべてのポイントクラウド演算、要素および機能を提供します。それはシステムの構成に応じて、[表示|ツールバー| ポイントクラウド]メニューからアクセスできます。

すべての点群ツールバー機能について詳しくは、PC-DMIS Laser ドキュメントの「点群ツールバー」トピックを参照してください。

メッシュツールバー



メッシュツールバー

メッシュツールバーはすべてのメッシュ演算、要素および機能を提供します。それはシステムの構成に応じて表示|ツールバー| メッシュメニューからアクセスできます。



メッシュを使用するには、メッシュのライセンス供与が必要があります。

すべてのメッシュツールバー機能について詳しくは、PC-DMISレーザードキュメントのトピック「メッシュツールバー」を参照してください。

ディメンション ツール バー

PC-DMIS はユーザーが選択する GD&T 標準に基づいて、寸法ツールバーの変化を表示します。



寸法ツールバー - [従来の寸法を使用する] メニューオプションが有効な状態で表示されます



寸法ツールバー - [従来の寸法の使用] メニューオプションが無効、ISO 1101 2012/2017、ASME Y14.5 – 1994 または ASME Y14.5 2009 が GD&T 標準として選択されます



寸法ツールバー - 無効な従来の寸法を使用、ASME Y14.5 – 2018 が GD&T 標準として選択されます



選択された標準と互換性のないツールバーオプションは無効です。

寸法ツールバー（[表示|ツールバー|寸法]）はすぐに寸法メニューから利用可能なオプションにアクセスするために使用されます。下記の寸法アイコンは、「旧式寸法の使用」章を参照してください。幾何公差を使用する場合、「幾何公差の使用」章を参照してください。



場所 - 場所を参照してください。



距離 - 距離を参照してください。



間の角度 - 間の角度を参照してください。



真直度 - 真直度を参照してください。



平坦度 - 平坦度を参照してください。



真円度 - 真円度を参照してください。



円筒度 - 円筒度を参照してください。



直角度 - 直角度を参照してください。



平行度 - 平行度を参照してください。



傾斜度 - 傾斜度を参照してください。



位置 - 位置を参照してください。



同心度 - 同心度を参照してください。



同軸度 - 同軸度を参照してください。



対称度 - 対称度を参照してください。

配置ツールバー



全振れ - 全振れを参照してください。



円周振れ - 円周振れを参照してください。



面の輪郭度 - 面の輪郭度を参照してください。



線の輪郭度 - 線の輪郭度を参照してください。



サイズ - 寸法サイズを参照してください。

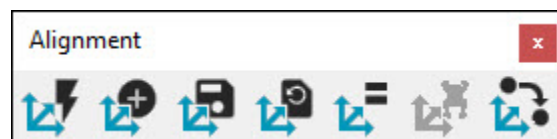


キー入力 - キー入力を参照してください。



データム定義 - データムの定義および使用を参照してください。

配置ツールバー



配置ツールバー

整列ツールバー（[表示|ツールバー|整列]）を使用すると、**挿入|整列** サブメニューの同じ整列オプションにアクセスできます。

以下の配置機能が使用できます：



QuickAlign - ツールバーのアイコンを1回クリックするだけで、編集ウィンドウから整列を作成します。QuickAlignの機能の詳細については、「QuickAlignについて」トピックを参照してください。



新規整列 - 測定ルーチンで新しいアラインメントを作成するための**整列ユーティリティ**ダイアログボックスを表示します。**整列ユーティリティ**ダイアログ

ボックスの使用の詳細については、「整列ユーティリティダイアログボックスの説明」トピックを参照してください。



整列の保存 - 現在の整列を外部ファイルに保存するために、**整列を改名保存**ダイアログボックスを表示します。外部整列は、別の測定ルーチンで呼び出すことができます。整列の保存の詳細については、「整列の保存」トピックを参照してください。



アラインメントの呼び出し - これは現在の測定ルーチンで以前に作成されたアラインメントまたは別の測定ルーチンから保存されたアラインメントを再び呼び出します。整列のリコールの詳細については、「既存の整列のリコール」トピックを参照してください。



等位整列 - 部品の位置や向きを変更したり、部品が誤って移動された場合に整列を回復したりします。等位整列の詳細については、「等位整列」トピックを参照してください。



以下の**跳躍**および**バンドルアラインメント**機能は、ポータブルシステムに接続している場合のみに使用できます。

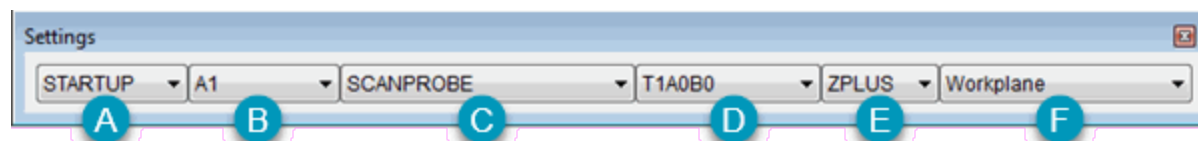


リープフロッグ - **リープフロッグ/再配置**ダイアログボックスを表示します。このメニューオプションはオフラインモードでは無効です。アイコンをアクティブにするには、サポートされているポータブル測定機に物理的に接続する必要があります。リープフロッグ操作の詳細については、「リープフロッグ操作の実行」トピックを参照してください。



バンドルの整列 - バンドルの整列を作成します。バンドルアラインメントは大規模または複雑な測定のためのポータブルシステムにおいて主として使用され、同じセンサーをオブジェクトの周りの異なった位置に動かすことによって、一般的なネットワークで多くのステーションを作成します。バンドルアラインメントの詳細については、PC-DMIS Portableドキュメントの「バンドルアラインメントの使用」を参照してください。

設定ツール バー



設定ツール バー

[設定]（表示|ツールバー|設定）は、いくつかの設定を切り替えるためのより便利な方法を提供するリストを含みます。ツールバーの左から右に、これらの設定は次のとおりです。

A. ニュー - グラフィック表示ウィンドウの保存ビュー

ビューリストを使用すると、アクティブな測定ルーチンで作成され、保存された保存ビューセットを呼び出すことができます。

PC-DMISは、編集ウィンドウに`RECALL/VIEWSET, <NAME>` コマンドを挿入します。

編集ウィンドウにおけるコマンド行を以下に示します。

```
RECALL/VIEWSET, view_set_name
```

View_set_name =呼び出しするビューセットの名称が入ります。

PC-DMISが画像呼び出しを行っている途中には、その他の機能が一時的にアクセス不可能になります。

ビューセットの詳細については、「CAD表示の編集」の章にある「スクリーン画像セットアップ」と「レポートコマンドの挿入」の章にある「ビューセットの利用」を参照して下さい。

B. アラインメント - 保存されたアラインメント

アラインメントリストを使用すると、以前に保存したアラインメントを選択することができます。これらの配置は選択されると、編集ウィンドウ内に挿入が可能です。

整列の作成と保存の方法に関する、追加の情報については「整列の作成と使用」の章の「整列の保存」を参照して下さい。

編集ウィンドウでパート配置 (アライメント) に移動して、
ALIGNMENT/STARTコマンドのLIST=部分の数値を変更することによって、この一覧にどのパート配置 (アライメント) が表示されるかをコントロールできます (詳しくは、「パート配置 (アライメント) の作成および使用」章を参照して下さい)。

C. プローブ- 定義されたプローブタイプ

プローブ一覧を用いると、お手持ちのプローブ ファイル内に既に定義されたプローブを選択することができます。PC-DMISが、編集ウィンドウ内にLOADPROBEコマンドを挿入します。



PC-DMISは、設定ツールバーのプローブリストにあるアクティブなBプローブを太字のフォントでマークします。物理的にアクティブなTProbe ではない異なるプローブを一覧から選択してヒットを取得すると、ソフトウェアは警告メッセージを表示します。物理的にアクティブなプローブのプローブ設定を常に使用することをお勧めしますが、そうしないと、ヒットデータがボールの直径およびオフセットに対して正しく補正されない場合があります。

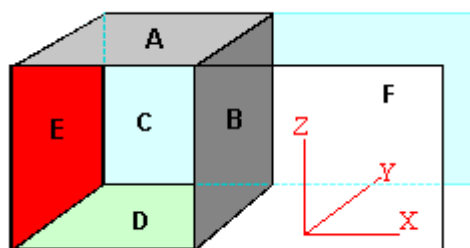
D. プローブ・チップ- 定義済のプローブ先端とプローブ先端の角度

プローブチップリストには、以前定義されたプローブチップの角度が格納されています。チップ角度の作成方法については「ハードウェアの定義」の章から「角度の追加」を参照してください。

E. 作業平面- 利用可能な作業平面

[作業平面]一覧では、作業中の平面を変更できます。このオプションは、グラフィック表示ウィンドウの表示を変更しませんが、作業平面だけが変更されます。

利用可能な作業平面は次のとおりです：



面	色	作業平面
A=最上部	淡い灰色	Zプラス
B=右	濃い灰色	Xプラス
C=後部	水色	Yプラス
D=底部	黄緑色	Zマイナス
E=左	赤色	Xマイナス
F=前部	クリア (消去)	Yマイナス

測定された線及び作業面

測定線を作成する場合、PC-DMISは現在の作業面に垂直なベクトルで線のヒットを取得することを期待しています。

例えば、現在の作業平面がZPLUS(ベクトル 0,0,1)であり、まとまったパーツがある場合、線を測定するためのヒットはそのパートの前面や側面等、垂直な面上にある必要があります。

それから、当パーツの上部表面上にある、直線要素を測定する場合、直線の方法次第で、作業平面を、Xプラス、Xマイナス、Yプラス、または、Yマイナスに切り換える必要があります。

F. 投影面 - 特定の要素を投影する目標平面 (面)

投影の平面一覧には、測定ルーチン内で作成された、あらゆる平面要素の一覧が含まれます。デフォルトでは PC-DMISは、測定された各直線を現在の作業平面に投影するため、この一覧にあるデフォルトの項目が**作業平面**を表示します。しかし、この一覧から異なる平面を選択することができま

す。その後、PC-DMISは、測定された直線と円それぞれを、新規に選択された平面に投影します。

プローブ モード ツール バー



プローブ モード ツール バー

プローブモードツールバー(ビュー | ツールバー | プローブモード)にはアイコンが含まれ、これを使用して現在のプローブまたはCMMによって使用される異なるモードを入力することができます。

以下に利用可能なアイコンを説明します。



手動モード - このアイコンは、PC-DMISを手動モードにします。手動モードでは機械の移動および測定を手動でコントロールできます。手動モードは手動CMMまたは自動CMMで測定ルーチンの手動アラインメント部分を実行するときに使用されます。このアイコンをクリックすると、PC-DMISはMODE / MANUALコマンドを編集ウィンドウのカーソル位置に挿入します。このコマンドに続く、編集ウィンドウのコマンドは、手動モードで実行されます。



DCC モード - このアイコンは、PC-DMISをDCC モードにします。DCCモードではサポートするDCC測定機が自動的に測定ルーチンの測定を引き継ぐことができます。このアイコンをクリックすると、PC-DMISはMODE/DCCコマンドを編集ウィンドウのカーソル位置に挿入します。このコマンドに続く、編集ウィンドウのコマンドは、DCCモードで実行されます。



読み取りモード - このアイコンは、ユーザーがLK 機械を使用しており、PC-DMISがオンラインモードになっている場合に使用できます。アイコンはプローブを読

み取りモードにします。詳細については、PC-DMIS CMMヘルプドキュメントの「プローブを読み取りおよび取込み点モードにする」を参照してください。



取込み点モード - このアイコンは、LK機械を使用しており、PC-DMISがオンラインモードになっている場合に使用できます。このアイコンはプローブを取込み点モードにします。詳細については、PC-DMIS CMMヘルプドキュメントの「プローブを読み取りおよび取込み点モードにする」を参照してください。



ヒットを取得する - 手動モードでサポートされているプローブの場合、このアイコンはプローブボールの位置でヒットを取得します。



ヒットを消去 - このアイコンは、ヒットバッファから最新のヒットを削除します。



プローブ計測値 - このアイコンは、プローブ計測値ウィンドウを開きます。プローブ測定値ウィンドウ上の使用に関する説明については、「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」章の「プローブ測定値ウィンドウの使用」を参照して下さい。



点自動トリガモード - 支援されたポータブルアーム測定機の場合、このアイコンはPOINT AUTOTRIGGERコマンドを測定ルーチンに挿入します。平面自動トリガーモードの詳細については、「初期設定」章の「点自動トリガーエリア」トピックを参照してください。



平面自動トリガモード - 支援されたポータブルアーム測定機の場合、このアイコンはPLANE AUTOTRIGGERコマンドを測定ルーチンに挿入します。平面自動トリガーモードの詳細については、「初期設定」章の「点自動トリガーエリア」トピックを参照してください。

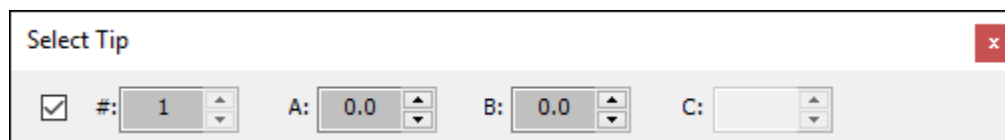


[CADモードから公称値を検索] - このアイコンは、**[セットアップ オプション]**ダイアログボックスの**[汎用]**タブにある**[公称値を検索]**チェック ボックスを選択します。このチェックボックスの詳細については、「初期設定」章の「公称値の検索」を参照してください。



[ポイント限定モード] - このアイコンは**[セットアップ オプション]**ダイアログボックスの**[汎用]**タブにある、**[ポイント限定モード]**チェック ボックスを選択します。このチェックボックスの詳細については、「初期設定」章の「公称値の検索」を参照してください。

[チップの選択]ツールバー



[チップの選択]ツールバー

[チップ選択]ツールバー(**ビュー|ツールバー|チップ選択**)を使用すると、チップ(スタープローブの場合)およびチップ角度(プローブヘッド角度およびリスト回転をサポートする構成の場合)を測定ルーチンに素早く挿入することができます。これらは既存の校正済みチップのみに制約されるか、**[プローブユーティリティ]**ダイアログ ボックスへアクセスしてから**[角度の追加]**ボタンをクリックするという従来の方法を実行しなくても、プローブハードウェアがサポートする任意の新しい角度を挿入することができます。

例えば、オフラインモードで要素をティーチングしているが、異なる角度を使用しない場合、パートを所定位置に固定している治具がプローブの測定を許可しないとします。このツールバーを使用して、望ましい角度の視覚化および定義が素早く行え、従来の手順よりもずっと簡単なワークフローが可能になります。これを行うには、希望の角度を入力 (または上下増分矢印を使用) します。編集ボックスで変更が行なわれるたびに、PC-DMISはチップまたはチップ角度を測定ルーチンに挿入し、グラフィック表示ウィンドウでプローブを適切に描画します。

下記の項目があります

アクティブ アーム ツール バー

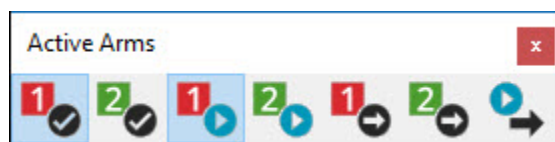
チェックボックス - このチェックボックスはツールバーを制約して、校正済みのチップ角度のみを選択できるようにします。この項目を選択し、A、BまたはC角度のうちの1つを増加させると、最も近い校正済みチップ角度が選択されて測定ルーチンに挿入されます。

このチェックボックスをオフにすると、プローブ型で有効なチップ角度の増分を任意に定義できます。

チップ#ボックス - このボックスはチップ番号を表します。これは、回転ヘッドまたはリストを持たず複数の物理チップを持つプローブタイプに適用されます。例えば、星型プローブは5つのプローブ先端を持ち、それぞれが先端番号で表されます。このボックスでその番号を入力または選択すると、関連するチップコマンドが測定ルーチンに挿入されます。

A、B、C ボックス - これらの角度ボックスはプローブヘッドおよびリストのA、BおよびC角度を定義します。各ボックスの右にある矢印をクリックして、次の有効な値に対するそれぞれの角度を増加または減少させます。

アクティブ アーム ツール バー



アクティブ アーム ツール バー

アクティブのアームツールバーが（操作|マルチアームモードに入る）、複数のアームを操作するために使用されています。



アーム1 アクティブ - これは主アームに対応します。選択されると、アーム 1 はアクティブであると見なされます。



アーム2 アクティブ - これは補助アームに対応します。一度にアクティブにできるアームは1つだけです。選択されると、アーム2はアクティブであると見なされます。



アーム1上の実行 - アーム1の測定ルーチンを実行します。



アーム2上の実行 - アーム2の測定ルーチンを実行します。



アーム1始点に移動 - これは[編集]ウィンドウ内のカーソルをアーム1測定ルーチンの開始点の上部へ移動します。



アーム2始点に移動 - これは[編集]ウィンドウ内のカーソルをアーム2測定ルーチンの開始点の上部へ移動します。

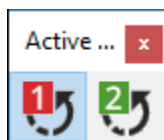


始点から実行 - 両腕の測定ルーチンの実行が現在定義されている始点から開始されます。また、アクティブなアームに対応した、色付きのチェック マーク アイコンをクリックして、特定のアームに連結したコマンドを実行することも可能です。

[アクティブアーム] ツールバーは、マルチアームモードのアドオンパッケージがシステム用に購入された場合に使用できます。

複数アームCMMのセットアップ、及び使用に関する、より詳しい説明については、「複数アームモードの使用」の章を参照して下さい。また、このツールバーの使用に関する追加情報については、この章の「アームにコマンドの割り当て」の項目を参照して下さい。

アクティブ回転テーブル ツール バー



アクティブ回転テーブル ツール バー

アクティブ回転テーブルツールバー（[表ビュー|ツールバー|アクティブ回転テーブル]）は2回転テーブルからどちらがアクティブなテーブルであるかを選択します。このツールバーは、[編集|初期設定|回転テーブルセットアップ]メニューオプションから回転テーブルを設定するときに使用できます。より詳しい説明については、「初期設定」章の「回転テーブルの定義」を参照して下さい。

ClearanceCube ツールバー



ClearanceCube ツールバー

ClearanceCubeツールバー(表示|ツールバー|**ClearanceCube**)を使用して、ClearanceCube機能に関連するオプションを有効または無効にします。「CAD表示の編集」の章にある「ClearanceCubeの使用」を参照して下さい。

以下のオプションが利用可能です:



ClearanceCube の定義 - このアイコンは [ClearanceCube の定義] ダイアログボックスを表示します。ダイアログボックスの詳細については、「（シンプル）ClearanceCubeの定義」のトピックを参照してください。また、Alt + C を押してダイアログボックスを開くことができます。



ClearanceCube 移動を有効にする - このアイコンは ClearanceCube 移動を有効または無効にします。

- 有効にすると、測定ルーチンはClearanceCubeを使用して、その動作をコントロールするか、クリアランス平面を無効にします。
- 無効にすると、測定ルーチンはその動作をコントロールするために既存のクリアランス平面コマンドを使用します。



測定ルーチン内の要素が ClearanceCube 移動を使用する場合、ClearanceCube を無効にすることはできません。



ClearanceCube を表示 - このアイコンはグラフィック表示ウィンドウで ClearanceCube を表示または非表示にします。

グラフィック表示ウィンドウで ClearanceCube の透明度を高くするには、[CAD およびグラフィック設定] の [OpenGL] タブにある [高品質の透明度] チェックボックスをオンにします (編集 | グラフィック表示ウィンドウ | OpenGL)。



ClearanceCube 設定ウィンドウ - このアイコンは ClearanceCube 設定ウィンドウを表示または非表示にします。

ウィザード ツール バー



ウィザード ツール バー

このツールバー上のアイコンはPC-DMISと共にインストールされた外部ウィザードによる制限を受けます。これらのウィザードは、まだアプリケーションを使用する方法を学習している新規ユーザーの利便性を高めるのに役立ちます。

下記のウィザードが使用できます。



3-2-1 アライメントウィザード - このウィザードは2つの基本的なアライメント、3-2-1 アライメントと 2円のアライメントを順を追って説明します。



CAD インポートウィザード - このウィザードでは一つまたは複数のCADモデルをグラフィック表示ウィンドウにインポートできます。アイコンをクリックするとダイアログボックスが現れます。インポートするファイル一つ以上選択し、[開く]をクリック

ウィザード ツール バー

クします。これは、すでにウィンドウ内に存在するすべてのCADデータを置き換えます。



データフィールド編集ウィザード – このウィザードでは[置換]ダイアログボックスを使用した置換ができない編集ウィンドウで、特定のフィールドを置換することができます。「測定ルーチンの編集」の章にある「データフィールドの編集」を参照して下さい。



DMIS 出力ウィザード – このウィザードは、検査レポートの DMIS 出力ファイルをエクスポートする際に役立ちます。



反復アラインメント ウィザード – このウィザードは、反復アラインメントの作成手順を順を追って説明し、入力の背後にあるアラインメントのルールに関して説明します。



複数実行ウィザード – このウィザードでは測定ルーチンの実行を無限に、あるいは指定回数だけループさせることができます。また、反復の間表示される特定のメッセージを選択することもできます。



プローブウィザード – このウィザードはプローブの定義方法を示し、新しく定義されたプローブの校正をできるようにします。



データベースウィザード – このウィザードは ODBC データベースを作成および登録する場合に便利です。これは、ライセンスが[統合された統計]オプションに設定されている場合のみに現れます。

減少した機能



PCD2Excel ウィザード (PCD2excel.exe) は現在では未サポートで、ユーザーインターフェイスから利用できません。それは幾何公差コマンドをサポートしません。代わりに Excel フォームレポートを使用してください (挿入 | レポートコマンド | Excel フォームレポート)。

Excel フォームレポートの使用方法について詳しくは、PC-DMIS ツールキットモジュールドキュメントの「Excel フォームレポートコマンドを使用する」セクションを参照してください。

上記の Excel フォームレポートの使用を推奨しますが、PCD2Excel ウィザードは PC-DMIS インストール場所の「C:\Program Files\Hexagon\PC-DMIS 2026.1 64-bit\en」フォルダーに現在でもあります。

PCD2Excel ウィザードは将来のバージョンでは削除されます。



PCD2Excel ウィザード – このウィザードは PC-DMIS 測定ルーチンデータを選択した Microsoft Excel ファイルにエクスポートします。ウィザードのオプションを設定するには、**[設定]**をクリックします。設定オプションの詳細は「Excel 出力の設定」トピックを参照してください。

PCD2Excel ウィザードが正しく機能するには Excel 2003 以降が必要です。

Excel オプションの設定

このトピックでは PCD2Excel ウィザードの構成オプションについて説明します。



PCD2Excel ウィザード (PCD2excel.exe) は現在では未サポートで、ユーザーインターフェイスから利用できません。それは幾何公差コマンドをサポートしません。代わりに Excel フォームレポートを使用してください (挿入 | レポートコマンド | Excel フォームレポート)。

Excel フォームレポートの使用方法について詳しくは、PC-DMIS ツールキットモジュールドキュメントの「Excel フォームレポートコマンドを使用する」セクションを参照してください。

上記の Excel フォームレポートの使用を推奨しますが、PCD2Excel ウィザードは PC-DMIS インストール場所の「C:\Program Files\Hexagon\PC-DMIS 2026.1 64-bit\en」フォルダーに現在でもあります。

PCD2Excel ウィザードは将来のバージョンでは削除されます。

利用可能な構成オプションは以下の通りです：

アクティブな測定ルーチン - 現在の測定ルーチンの名前を表示します。

出力ファイル - ファイル名およびその場所を定義します。**[ファイル名]** ボックスは出力先である Microsoft Excel ファイルの名前を定義します。完全パスを入力するか、**[参照]** をクリックして既存のファイル名の場所に進み、選択することもできます。

入力 - 出力形式を定義します。以下のオプションが含まれます。

Excel - 出力を Excel 形式のファイルに送信します。

CSV - 出力をプレーンテキストのカンマ区切り値 (CSV) ファイルに送信します。**[区切り文字]** では別の区切り文字を選択することもできます。

Excel を表示 - これをマークすると、エクスポートプロセス中に Excel が現れます。クリアすると、Excel がバックグラウンドで隠れて実行します。

区切り文字 - CSV ファイルへのエクスポート中に使用するセパレータまたは区切り文字を決定します。デフォルトはカンマ文字(,)です。

上書きモード - データが既存のファイルに送信されたときに発生する内容を定義します。

いいえ - 既存の測定結果データは上書きされません。既存の測定結果の新しい値は無視されます。完全に新規の測定結果のみが出力ファイルに追加されます。

はい - 既存の測定結果のデータが最新情報に上書きされます。

追加 - 既存データは新しい値で上書きされません。既存の寸法の新値が追加されます。

複数のインスタンスをエクスポート - 実行中の要素の複数のインスタンスがエクスポートされるファイルに現れる順番を決定します。複数のインスタンスは、ループやその他の実行分岐のために要素が複数回実行された結果です。

位置順 - 複数インスタンスが測定ルーチンの最上部位置から最下部位置に向かってエクスポートされます。

実行順 - 複数のインスタンスが最後に測定ルーチンが実行された際の実行順を基にエクスポートされます。例えば、実行中、分岐条件文がいくつかの寸法をスキップすると、その間の寸法もこのエクスポートで無視されます。

PC-DMIS 統計 - データをエクスポートするために **PC-DMIS STATS/ON** または **TRACEFIELD** コマンドが必要かどうかを決定します。

STATS/ON および STATS/OFF を使用 - これをマークすると、測定ルーチンで **STATS/ON** および **STATS/OFF** コマンドの間に寸法(または幾何公差の寸法)コマンドを追加する必要があり、追加しない場合、ウィザードはデータを Excel ファイルにエクスポートしません。このチェックボックスをクリアすると、すべての測定結果コマンドが Excel ファイルにエクスポートされます。「統計データの追跡」章を参照してください。

TRACEFIELD を使用 - これは **STATS/ON** および **STATS/OFF** が使用された場合に選択可能になります。

ヘッダー - 測定ルーチンのヘッダーデータを出力ファイルに書き込む方法を決定します。
。

測定ルーチンの名前 - これをマークすると、測定ルーチンの名前が出力ファイルに含まれます。

短縮 - ファイル名が短縮された形式となり、完全なパスではなくファイル名のみが表示されます。

完全 - ファイル名は完全パスを含めて表示されます。

パーツ名 - これをマークすると、パーツ名が出力ファイルに含まれます。

改訂番号 - これをマークすると、改訂番号が出力ファイルに含まれます。

シリアル番号 - これをマークすると、シリアル番号が出力ファイルに含まれます。
。

統計カウント - これをマークすると、トランザクションまたは実行の数が出力ファイルに含まれます。

日時 - これをマークすると、現在の日時が出力ファイルに含まれます。

測定結果 - 測定結果データを出力ファイルに表示する方法を決定します。

行 - 測定結果が横に並べられます。

列 - 測定結果が縦に並べられます。

ヘッダー開始行および列 - ヘッダー情報の表示が開始する位置を定義します。2および2の値は下に向かって2行目、右に向かって2列目から開始することを意味します。

データ開始行および列 - 測定結果データ情報の表示が開始する位置を定義します。9および2の値は9行目、および2列目から開始することを意味します。

FCFを無視 - これをオンにすると PC-DMIS は幾何公差コマンドを Excel ファイルに引渡しません。「幾何公差を使用する」章を参照してください。

単位 - これをマークすると各測定結果で使用される測定単位がエクスポートに含まれます。例えば、角度の測定値は度として DEG を示し、サイズの測定値はミリメートルとして MM を、インチとして IN を示します。

フィールドラベル - 出力でデータフィールドの隣のラベルがどのように表示されるかを決定します。

一度 - ヘッダー情報の後、すべての測定結果がリストに表示される前にフィールドラベルが一度だけ現れます。これらは[行]または[列]設定に基づき、カラム見出しから行の見出しのいずれかです。

常時 - フィールドラベルは各測定結果の前で現れます。

すべてのフィールド - [常時]をマークすると、このチェックボックスが選択可能になります。[すべてのフィールド]をマークするとすべてのフィールドが現れます。これには、測定結果、説明、要素、軸、セグメント、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、ボーナス、偏差、公差範囲外、偏差角度、基準要素のシフト効果、未使用の領域、シフト X、シフト Y、シフト Z、回転 X、回転 Y、および回転 Z が含まれます。

これをクリアすると、測定結果、説明、軸、公称値、測定値、プラス公差、マイナス公差、偏差、および公差範囲外のラベルのみが現れます。

測定結果の間に空白の行/列を挿入 - これをマークすると、各測定結果の後に空白の行が挿入されます。

デフォルト - このボタンは、このダイアログボックスの設定を保存するデフォルトファイル (Defaults.p2x) を作成します。このボタンをクリックすると、PC-DMISはメッセージを表示せずにデフォルトファイルの内容を自動的に更新します。

PC-DMISは下記のケースでこのデフォルトファイルを使用します。

- 新規測定プログラムの場合
- 現在の測定ルーチンでは、PC-DMISがルーチン固有の設定ファイルを見つけることができない場合 (PC-DMISは、このダイアログボックスに最初にアクセスするたびに測定ルーチンと同じディレクトリにルーチン固有の.p2xファイルを作成します。続行をクリックするたびに、そのルーチン固有のファイルが変更されます。

PC-DMIS は、Defaults.p2x ファイルを PC-DMIS をインストールされた場所のウィザードフォルダに保存しようとします。まず、インストールフォルダ内にウィザードフォルダを作成する必要があります。そのフォルダーが存在しない場合は、「デフォルト

ツールバーの構築および検査

」をクリックしても何も起こりません。このデフォルトファイルは、任意のテキストエディタで表示できます。

監視なしでウィザード実行

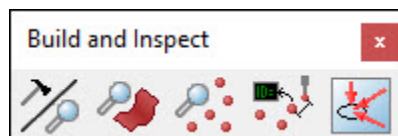
人による介入なしにPCD2Excel ウィザードを実行するようにPC-DMISに指示することができます。当ウィザードのコンフィギュレーションの後に、EXTERNALCOMMANDをお客様の測定ルーチン内に挿入し、そのコマンドに「A」パラメータを付け加えて下さい。コマンドは以下のようになります:



```
EXTERNALCOMMAND/DISPLAY ; C:\Program Files\Hexagon\PC-DMIS 2026.1 64-bit\en\Wizards\PCD2EXCEL.EXE A
```

このコマンドは、無監視で実行するよう当ウィザードに指示します。ユーザが英語以外のバージョンを使用している場合は、経路の「en」の代わりに、お使いの言語の2文字のサブディレクトリを使用します。

ツールバーの構築および検査



ツールバーの構築および検査

ポータブル測定装置でパーツを測定する場合、このツールバーが使用されます。このツールバーの詳細については、「PC-DMISポータブル」ドキュメントの「構築及び検査ツールバー」トピックを参照してください。

QuickMeasure ツールバー

QuickMeasureツールバーは、モデル、ソフトウェアの様々なサポートされる構成の典型的な操作フローを構築します。ユーザは「ビュー | ツールバー | QuickMeasure」メニューからアクセスできます。

ツールバーは多くのボタンのためにドロップダウンメニューを使用します。PC-DMISはこれらのボタンで最後に選択されたオプションを保存し、次回QuickMeasureツールバーがアクセスされるときに表示します。

必要に応じて、「ビュー | ツールバー | カスタマイズ」メニューオプションから他のツールバーにドロップダウンメニューを追加することができます。ツールバーをカスタマイズする方法については、「ユーザー・インタフェースのナビゲート」章の「ツールバーのカスタマイズ」トピックを参照してください。

CMM及びVisionに対応

PC-DMIS CMMまたはVisionの**QuickMeasure**ツールバーのアイコンは左から右へ、CMMまたはビジョン用に設定されたシステムでの操作の典型的な流れをモデル化します。



CMMおよびビジョンユーザー用のQuickMeasureツールバー

このツールバーの詳細については、PC-DMIS CMMドキュメントの「CMM QuickMeasure ツールバー」を参照してください。

ポータブル機種には

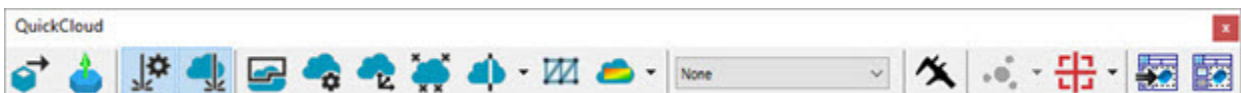
左から右まで、PC-DMIS Portable の**QuickMeasure**ツールバーのアイコンは、Portable 測定機での操作の典型的な流れをモデル化しています。このツールバーは、単にPC-DMISのバージョンがポータブル測定機に使用するように設定される場合のみに利用できます。



ポータブルユーザー用QuickMeasureツールバー

このツールバーについて詳しくは、「PC-DMIS ポータブル」ドキュメントの「ポータブル QuickMeasure ツールバー」トピックを参照してください。

QuickCloudツールバー



QuickCloudツールバー

クイック治具ツールバー

QuickCloudツールバーはPC-DMISがポータブルデバイス向けにライセンス供与および設定されているときにのみ使用できます。ポイントクラウド（COP）を仕様するためのすべての手順を完了するボタンが用意されています。


このツールバーの詳細については、PC-DMISポータブルドキュメントの「の情報 QuickCloudツールバー」トピックを参照してください。



すべての点群ツールバー機能について詳しくは、PC-DMISレーザードキュメントの「点群ツールバー」トピックを参照してください。

クイック治具ツールバー

クイック治具ツールバーを表示または非表示にするには、次のいずれかを選択します：

- **図形モード**ツールバーからクイック治具モードアイコン  を選択します。
- 操作|グラフィック表示ウィンドウ|画面モードを変更|クイック治具モードを選択します。

ツールバーが現れるときに、ソフトウェアは永久にクイック取付具ツールバーを垂直方向にメインアプリケーションウィンドウの右側にドックします。

ツールバーには一部のボタンにドロップダウン機能を提供します。PC-DMISはこれらの各ボタンで最後に選択されたオプションを保存し、ソフトウェアがクイック取付具ツールバーを表示する次回に表示します。



このツールバーの多くのボタンはモードボタンです。その時点で選択されているモードには青色のハイライトがあります。



ドロップ - このモードを選択すると、選択したクイック取付具がグラフィックの表示ウィンドウ内のどこにろうが下にドロップされます。Z-方向に何も無い場合、何も起こりません。何か存在する場合、取付具はオブジェクトに接触するまでドロップします。



レベル - このモードにより、右クリックされた場所の垂直面ベクトルが取得され、それが測定機の座標システムを用いて平行配置されます。



回転 - このモードでは、クリックされたポイントが表示され、その不可視ポイントが最も近いエッジにドロップされます。次にドロップ点で曲線に正接するベクトルを直角に配置します。回転は2次元で直角に行われ、現在の法線ビューを見下ろす形となります。



四角 - このモードは、選択されたクイック要素を、その軸が三面体によって示されたCAD軸に平行になるように四角形にします。



削除 - このモードは、選択されたクイック取付具オブジェクトを削除します。



リンク - これは、画面上のすべての取付具コンポーネントをグループ化し、1つの取付具をドラッグしたり回転することですべてまとめてドラッグまたは回転することができるグループモードに入ります。それがクリアされると、個別に取付具部品を操作することができます。



固定 - 取付具がリンクしている場合は、これは、それが動かないようにリンクされた部品セットの所定位置に選択した部品の位置を固定します。たとえリンクしたセットの中の他のコンポーネントを移動してもコンポーネントは現在の位置に固定されます。



保存 - これは名前を付けて保存ダイアログボックスを開き、任意の画面上の治具要素を保存することができます。画面上に複数の取付具がある場合、PC-DMISはそれらすべてを1つのセットとして保存します。保存された取付具は、今後の利用のために[クイック取付具]ダイアログボックスの展開可能な**USER** ツリーに保存されます。



X 動き - このモードでは、X軸のみに沿った取付具の動きを可能にします。



Y 動き - このモードでは、Y軸のみに沿った取付具の動きを可能にします。



Z 動き - このモードでは、Z軸のみに沿った取付具の動きを可能にします。

クイック治具ツールバー



XY 動き - このモードでは、X軸とY軸に沿ってのみ治具の動きが可能です。



YZ 動き - このモードでは、Y軸とZ軸に沿ってのみ治具の動きが可能です。



ZX 動き - このモードは、Z軸とX軸のみに沿って、治具の移動を可能にします。



XY 回転 - このモードは、XY平面内のみでの回転を可能にします。固定具を回転させるには、Ctrlキーを押しながら、固定具をドラッグします。



YZ 回転 - このモードは、YZ平面内のみでの回転を可能にします。固定具を回転させるには、Ctrlキーを押しながら、固定具をドラッグします。



ZX 回転 - このモードは、ZX平面内のみでの回転を可能にします。固定具を回転させるには、Ctrlキーを押しながら、固定具をドラッグします。



取付具 - このメニュー項目を選択すると、位置の[クイック固定]ダイアログボックスが現れ、支援される取付具に含まれるCAD要素を使って作業することが可能となります。詳しくは「ハードウェアの定義」の章にある「クイック位置固定ダイアログボックスの使用」を参照してください。